

- 問1 飛鳥時代、仏教の受容に積極的であった蘇我馬子が、大陸から招いた技師の指導を受けて建立した、日本で最初の本格的な寺院を何といますか。 (2025年 東京都公立入試 類似)
1. 飛鳥寺
 2. 法隆寺
 3. 東大寺
 4. 四天王寺
- 問2 7世紀から8世紀にかけての日本の政治と都の変遷について述べた記述において、聖徳太子を摂政に任命して小野妹子らを遣隋使として派遣した天皇と、710年に唐の都である長安を模して建設された都の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2025年 秋田公立入試 類似)
1. 推古天皇と平城京
 2. 天武天皇と平城京
 3. 推古天皇と大宰府
 4. 天武天皇と大宰府
- 問3 672年に起こった壬申の乱のあとの政治的な変化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2025年 愛知公立入試 類似)
1. 勝利した天武天皇が、豪族の力を抑えて天皇の権威を高め、律令国家の建設を強力に推進した。
 2. 乱を平定するために武士の力を借りた朝廷は、これを機に武士の政治的な実力を認めるようになった。
 3. 乱はわずか一日で鎮圧されたため、それまでの豪族中心の政治体制に大きな変化は生じなかった。
 4. 勝利した側が唐の制度をすべて廃止し、日本独自の貴族による合議制を確立させた。
- 問4 7世紀初め、聖徳太子は中国の進んだ制度や文化を取り入れることを目的として、小野妹子らを隋（ずい）へ派遣しました。この外交政策の名称として正しいものを、次のうちから選んでください。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 遣隋使
 2. 遣唐使
 3. 遣明使
 4. 朝鮮通信使
- 問5 7世紀の日本は、聖徳太子の政治や大化の改新（645年～）など、国家の仕組みが大きく変化した飛鳥時代にあたります。この時期に天皇を中心とする中央集権国家の建設が急がれた背景として、最も適切な説明を選びなさい。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
1. 唐や新羅といった強大な外国の脅威に対抗するため、国内の統治体制を固める必要があったから
 2. 地方の武士が力を持ち始めたため、その反乱を抑えるための軍事力を整備しなかったから
 3. キリスト教の伝来による文化的な混乱を鎮め、仏教を中心とした国づくりを目指したから
 4. ヨーロッパ諸国との貿易を円滑に進めるために、港の整備と度量衡の統一が必要だったから
- 問6 663年に朝鮮半島で起こった白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、大和政権は九州の防衛を強化しました。このとき、博多湾から太宰府へ侵攻してくる敵を防ぐために築かれた、全長約1.2kmに及ぶ大規模な土塁と堀で構成された防衛施設を何といますか。 (2018年 福岡県公立入試 類似)
1. 水城
 2. 防人
 3. 山城
 4. 烽火
- 問7 聖徳太子は十七条の憲法を制定した際、役人に対して「天皇の命令（詔）には必ず従わなければならない」という姿勢を強調しました。このような記述が盛り込まれた政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 奈良公立入試 類似)
1. 有力な豪族が対立し合っていたため、天皇を中心とした中央集権的な国家を目指す必要があったから。
 2. 大宝律令に基づいた戸籍を作成し、すべての民衆に土地を平等に分配する仕組みを完成させたから。
 3. 唐の制度を模範とした大規模な行政組織がすでに完成しており、その運用を円滑にするため。
 4. 仏教を国教として強制し、法隆寺のような寺院の建立を最優先する国家方針を徹底させるため。
- 問8 聖徳太子が小野妹子を隋へ派遣した目的として、当時の日本の政治状況や国づくりの方針を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 中国の進んだ制度や文化を直接取り入れ、天皇を中心とする中央集権的な国づくりを進めるため
 2. 大宝律令を完成させるために、中国の法律の専門家を日本に招く交渉を行うため
 3. 卑弥呼がかつて受けた「親魏倭王」のような称号を隋の皇帝から授かり、国内の統治を安定させるため
 4. 菅原道真の建議に基づき、危険な渡海を伴う外交を縮小するための事前調査を行うため
- 問9 7世紀後半、天智天皇の死後に発生したその後継者をめぐる大規模な内乱について、この争いに勝利した大海人皇子が即位後に行った政治的な取り組みとして、最も適切なものはどれか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
1. 天皇の権威を大幅に強化し、律令国家の完成に向けた新しい政治の仕組みを整えた。
 2. 摂政や関白の役職を確立し、藤原氏が政治の実権を握る基盤を作った。
 3. 武士の力を初めて政治に利用し、全国に守護や地頭を配置して統治を強めた。
 4. 冠位十二階や十七条の憲法を制定し、家柄にとらわれない人材登用を目指した。
- 問10 飛鳥時代から江戸時代までの重要人物をまとめた記述において、壬申の乱での勝利を通じて即位し、天皇を中心とした国づくりを進めたとされる人物の事績として、最も適切な説明はどれか。 (2025年 栃木公立入試 類似)
1. 飛鳥浄御原令の編纂や、日本初の本格的な都とされる藤原京の造営に着手した。
 2. 冠位十二階や十七条の憲法を制定し、家柄にとらわれない人材登用や政治の心得を示した。
 3. 墾田永年私財法を出し、開墾した土地の永久私有を認めることで農地の拡大を図った。
 4. 律令政治の立て直しを目的として、都を平城京から平安京へと移した。
- 問11 7世紀前半、聖徳太子（厩戸王）や蘇我氏が活躍した時期に栄え、日本で最初の本格的な仏教文化となったものを何とよぶか。 (2017年 岐阜公立入試 類似)
1. 飛鳥文化
 2. 白鳳文化
 3. 天平文化
 4. 国風文化
- 問12 6世紀末から7世紀前半にかけて、推古天皇の摂政であった聖徳太子や大臣の蘇我氏らが中心となって発展した、日本で最初の本格的な仏教文化の名称として正しいものを選びなさい。 (2017年 愛媛公立入試 類似)
1. 飛鳥文化
 2. 白鳳文化
 3. 天平文化
 4. 国風文化
- 問13 聖徳太子が制定した「十七条の憲法」の目的として、当時の政治的背景から考えて最も適切な説明はどれか。 (2024年 徳島公立入試 類似)
1. 豪族どうしの争いを鎮め、役人としての自覚を持たせることで天皇中心の政治を目指した。
 2. 氏姓制度を維持するために、有力な豪族が代々高い官職を独占することを認めた。
 3. 唐の優れた法律にならい、日本で初めてとなる刑罰のきまりと政治の仕組みを明文化した。
 4. 神話の時代から続く天皇の歴史を記録することで、天皇による統治の正当性を内外に示した。
- 問14 701年に大宝律令が制定された際、政治の中心地として機能していた都について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、この都は現在の奈良県橿原市付近に位置しており、日本で初めての本格的な都城（街並みが整備された都）として知られています。 (2022年 大阪公立入試 類似)
1. 中国の都にならって整備された日本初の本格的な都城である藤原京
 2. 聖武天皇の時代に国際色豊かな文化が栄えた平城京
 3. 孝徳天皇によって難波の地に置かれ、大化の改新の舞台となった難波京
 4. 桓武天皇によって遷都され、平安時代を通じて政治の中心となった平安京

答え合わせ・解説

問1	答え 1 飛鳥寺	崇仏論争で物部氏に勝利した蘇我氏が、その権勢を示すとともに仏教を広める拠点として建立しました。それまでの日本の建物にはなかった屋根瓦の使用や、五重塔・金堂といった伽藍配置など、大陸の最新技術が初めて体系的に取り入れられた歴史的建造物です。
問2	答え 1 推古天皇と平城京	推古天皇は、聖徳太子（厩戸王）を摂政とし、中国の隋に対して対等な立場での外交を目指して遣隋使を派遣しました。その後、元明天皇の時代の710年には、唐の都である長安に做った「条坊制」と呼ばれる碁盤の目の状の都市区画を持つ平城京が建設され、本格的な律令国家の歩みが進められました。天武天皇は飛鳥浄御原令の編纂などに関わった天皇であり、大宰府は九州に置かれた外交や国防の拠点であるため、都の名称としては不適切です。
問3	答え 1 勝利した天武天皇が、豪族の力を抑えて天皇の権威を高め、律令国家の建設を強力に推進した。	壬申の乱で勝利して即位した天武天皇は、それまでの豪族たちが政治の実権を握る体制を改め、天皇に権力を集中させました。これにより、天皇を中心とした中央集権的な法制度に基づく「律令国家」の形成が加速することとなりました。武士が政治的な力を強めるのは平安時代末期以降のことです。
問4	答え 1 遣隋使	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を行う中で、小野妹子らを中国の隋へ派遣しました。これが遣隋使です。当時、中国は巨大な帝国として高度な文明を誇っており、日本はそこから法律や政治制度、仏教などの文化を直接学ぶことで、国力を高めようとしていました。
問5	答え 1 唐や新羅といった強大な外国の脅威に対抗するため、国内の統治体制を固める必要があったから	7世紀の日本は、大陸での唐の建国や、朝鮮半島での緊迫した情勢に直面していました。特に白村江の戦いでの敗北は大きな危機感をもたらし、いつ海外から侵攻されてもおかしくない状況下で、一刻も早く天皇に権力を集中させ、律令制度に基づく強固な国家体制（中央集権体制）を築くことが急務となりました。
問6	答え 1 水城	白村江の戦いで敗北した大和政権は、唐や新羅による日本本土への侵攻を強く警戒しました。特に九州の政治・外交の拠点であった太宰府を守るため、その北側に巨大な堤防のような土塁を築き、さらに外側に水を蓄えた堀を設けることで、博多湾方面からの敵の進入を阻止しようとしていました。この施設は「水城」と呼ばれ、現在の福岡県にその遺構が残っています。
問7	答え 1 有力な豪族が対立し合っていたため、天皇を中心とした中央集権的な国家を目指す必要があったから。	当時は蘇我氏などの有力な豪族が政治の実権を争っており、国家としてのまとまりが欠けていました。聖徳太子は「和を以て貴しとなす」という言葉で豪族間の協調を求めつつ、天皇の命令（詔）に従うことを義務づけることで、個々の豪族の権力を抑え、天皇を中心とする秩序ある国づくりを進めようとしていました。なお、全国的な律令（大宝律令）の完成は、この憲法制定から約1世紀後のことです。
問8	答え 1 中国の進んだ制度や文化を直接取り入れ、天皇を中心とする中央集権的な国づくりを進めるため	当時の日本は、豪族が強い勢力を持つ体制から、天皇を中心とした組織的な国家への転換を目指していました。冠位十二階や十七条の憲法の制定と並行して行われた遣隋使の派遣は、中国の官僚制や仏教精神を学ぶことで、強力な国家体制を築くための重要な手段でした。なお、大宝律令は8世紀、遣唐使の停止（菅原道真の建議）は9世紀の出来事であり、卑弔呼は3世紀の人物です。
問9	答え 1 天皇の権威を大幅に強化し、律令国家の完成に向けた新しい政治の仕組みを整えた。	天智天皇の死後に起きた壬申の乱で、天皇の息子である大友皇子を破った大海人皇子は、天武天皇として即位しました。天武天皇は、それまでの豪族中心の政治から天皇中心の強力な中央集権体制への転換を図りました。具体的には、飛鳥浄御原令の編纂に着手したり、国史（後の『古事記』や『日本書紀』）の編纂を命じたりするなど、律令国家の基礎を固める重要な役割を果たしました。
問10	答え 1 飛鳥浄御原令の編纂や、日本初の本格的な都とされる藤原京の造営に着手した。	壬申の乱に勝利した天武天皇は、律令の先駆けとなる飛鳥浄御原令の編纂を命じ、より強力な中央集権体制を象徴する藤原京の建設を進めました。他の選択肢は、それぞれ聖徳太子、聖武天皇、桓武天皇の事績です。
問11	答え 1 飛鳥文化	聖徳太子が摂政を務めた推古天皇の時代を中心に、蘇我氏などの有力豪族が仏教を積極的に受け入れたことで形成された。大陸の技術や様式を直接的に取り入れ、寺院建築や仏像制作が盛んに行われた。
問12	答え 1 飛鳥文化	この時期、朝鮮半島や中国大陸から伝来した仏教が政治の場でも重んじられるようになりました。聖徳太子（厩戸王）や蘇我馬子らが中心となり、法隆寺や飛鳥寺といった寺院が建立されたことが特徴です。これが日本最初の仏教文化となりました。
問13	答え 1 豪族どうしの争いを鎮め、役人としての自覚を持たせることで天皇中心の政治を目指した。	当時の政治は有力豪族である蘇我氏などが強い勢力を持っていましたが、聖徳太子は官吏（役人）の心得を定めることで、個々の豪族が勝手な行動を慎み、天皇に忠実に仕える体制を整えようとしていました。同時に導入された「冠位十二階」とともに、家柄にとらわれない中央集権的な国づくりが意図されていました。
問14	答え 1 中国の都にならって整備された日本初の本格的な都城である藤原京	藤原京は、694年から710年まで都として機能した場所です。701年の大宝律令制定時の都であり、それまでの宮殿中心の形態から、中国（唐）の都制を参考にした大規模な市街地を持つ「都城」へと進化した最初の例です。位置は現在の奈良県橿原市にあたります。